

アミノ酸含有ゼリー摂取による低栄養・寝たきり高齢者の栄養改善

○水畑謙二¹, 伊藤裕一郎², 桑原 万裕子¹, 何方³, 依田 一豊³, 宮澤 賢司³, 大谷 勝⁴

¹タカナシ乳業(株)牛乳・発酵乳商品部、²三聖病院、³タカナシ乳業(株)商品研究所、⁴(株)DAC

【目的】

寝たきり高齢者の多くが、タンパク質・エネルギー欠乏 (protein energy malnutrition : PEM) と呼ばれる低栄養状態であると言われている。PEM の患者では、病状の回復が遅れ、入院日数の増加、肺炎感染の高リスク化等の様々な弊害が知られており、高齢者における低栄養の予防・改善は重要な課題である。近年では、高齢者の健康状態改善に対するアミノ酸摂取の有効性が注目されており、例えばロイシンなどの分岐鎖アミノ酸 (BCAA) は同化作用が高く、既に低アルブミン血症改善剤としても使用されている。それゆえ、正しい食事指導のなかで適量のアミノ酸を摂取することは、効果的な栄養状態の改善が期待される。そこで、本研究では低栄養の寝たきり高齢者を対象にアミノ酸含有ゼリー摂取による栄養改善効果を調査することにした。

【試験方法】

本研究は、65歳以上の低栄養の寝たきり高齢者 18名 (女性 13名、男性 5名、PEG5名を含む、血清アルブミン値 3.8 g/dL 以下) を対象としたオープンラベルの前後比較研究として実施された。被験者はアミノ酸含有ゼリーを 2 個/日、2 ヶ月間摂取した。身体組成の測定および血液検査を実施し、試験開始時と比較した。

【結果と考察】

脱落した 2 名を除く被験者 16 名全てが、試験食であるアミノ酸含有ゼリーを 2 ヶ月間食べ続けることができた。被験者全体の平均体重および平均 BMI 値は、試験開始時と試験終了後で有意な変化はなかったが、PEG 患者 (n = 5) においては両項目とも有意に増加した。また、血清アルブミン量は試験期間中を通して有意な変化は観察されなかった。一般的に寝たきりの患者では体重の減少も問題であることから、アミノ酸含有ゼリーの摂取によって体重の減少を抑制もしくは増加できる可能性が示され、寝たきり高齢者の低栄養改善に対する有効性が示唆された。